

氏名(本籍)	ハーベス リム フォンデヴィリア (フィリピン)				
学位の種類	博士(芸術学)				
学位記番号	博甲第5802号				
学位授与年月日	平成23年3月25日				
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当				
審査研究科	人間総合科学研究科				
学位論文題目	Super Postmodern: The Influence of Japanese Popular Culture on Philippine Contemporary Visual Arts (スーパー・ポストモダン-日本のポップ・カルチャーに影響された現代フィ リピンの視覚芸術)				
主査	筑波大学教授	博士(芸術学)	岡崎	昭夫	
副査	筑波大学教授	博士(芸術学)	齊藤	泰嘉	
副査	筑波大学准教授	博士(芸術学)	直江	俊雄	
副査	筑波大学准教授	博士(芸術学)	石崎	和宏	

論文の内容の要旨

本論文は、日本のアニメやマンガなどのポップカルチャーが、現代のフィリピン人アーティストたちの意識と無意識にいかに関与したか、また、彼らがいかにそれを視覚芸術において表現しているかを解明することを目的とする比較研究である。そうした課題設定の背景には、これまでに両者の比較を検証するフィールドワークが必ずしも十分にはなされてこなかったという状況がある。

フィリピン文化の歴史は、スペインやアメリカの影響のもとに進展し、さらにそこに日本の文化の影響が加わるという重層性を有している。フィリピン人である著者は、そうした歴史的背景を踏まえた上で、マンガやアニメなどの現代日本文化とフィリピンの若い世代との密接な関係に着目し、現代フィリピン視覚芸術の特色の解明を試みている。

著者は、フィリピンにおいてアーティストたちへのインタビューや展覧会調査を行い、それを一次資料として用いている。さらにそのような収集資料を分析する手がかりとして「スーパー・ポストモダン」という文化概念を設定し、フィリピンの若い世代の視覚芸術の特色を解明しようとしている。

本論文の研究対象は、現在、フィリピンにおいて注目されている新しい視覚芸術の動向であるが、著者が分析の方法として用いている「スーパー・ポストモダン」という文化概念は、村上隆により設定された「スーパーフラット」という文化概念、ならびに松井みどりによって設定された「マイクロポップ」という文化概念を参考に著者が独自に考案したものである。

本論文は、以上の研究目的・対象と方法をもとに全3章からなる。第1章は、Social Context and History (社会的文脈と歴史)と題し、フィリピンにおける日本文化受容の歴史を太平洋戦争の時代にまでさかのぼって述べている。特に1980年代以降、アニメやマンガなど日本のポップカルチャーがフィリピンにおいて受容される過程を跡付けている。第2章は、Development of Theory and Practice (理論と制作の展開)と題し、村上隆(アーティスト、キュレーター、ビジネスマン)による「スーパーフラット」、松井みどり(研究者、キュレーター)による「マイクロポップ」の特質について考察している。著者によれば、「スーパーフラット」

とは、日本美術の伝統と記憶（ノスタルジア）や、フィギュア制作など現代のテクノロジー、さらにアートによる利益追求を混在させるトレンドに対する規定であり、「マイクロポップ」とは、「日常生活や、心の片隅に追いやられた記憶や場所などによって芸術作品を生み出すという意味」である。第3章は、Past, Present, and Future（過去、現在、未来）と題し、フィリピンにおける視覚芸術の新動向を「スーパー・ポストモダン」という概念で規定し、その特色を分析しようと試みている。著者は、さらに「世代」、「アイデンティティ」、「ポピュラーカルチャー」、「ノスタルジア」、「第3世界の生活」、「情報と技術」、「プレイ」という7つの観点を設け、そこから「グラフィック・ノベルズとマンガ」、「絵画とイラストレーション」、「マルチメディア」の3分野のアーティストたち（Arnold Arre, Melvin Calingo 他）の作品を分析している。結論においては、従来、フィリピン人アーティストたちの芸術創造に対して、グローバリゼーション、そしてテクノロジー、この二つが影響を与えてきたとしながらも、今日のフィリピンにおいては、日本のマンガやアニメなどのポップカルチャーに影響を受けた芸術創造が新しいトレンドとなっている点を指摘している。しかもそのような現象が生じた理由としては、フィリピンの若い世代のアーティストたちにとっては、日本のポップカルチャーが新鮮なものとして受け止められたからではなく、彼らにとっては、むしろそれが自分たちの子供時代の記憶やノスタルジアの対象だからであると結論づけている。

審査の結果の要旨

本論文は、村上隆や松井みどりが、現代美術の新動向の特質を表現するために「スーパーフラット」や「マイクロポップ」という文化概念を提示したことを先行例としており、著者は、フィリピン現代美術の特色を分析するために「スーパー・ポストモダン」という考え方を提示している。その考え方の実質は、フィリピンの若いアーティストたちが子供時代の記憶やノスタルジアの対象として日本のポップカルチャーをとらえることによって新しい芸術創造が生まれているというものであり、フィリピンにおいて単に外来の文化を受容消化するという従来の文化受容形式では語りえない現象が生まれていることを検証している点においてグローバリゼーションの時代における現代美術論としての独創性が認められる。この論考は、日本のポップカルチャーの国際的な影響力を明確化するが、今後は、日本のポップカルチャーがフィリピン以外のアジア諸国においてどのような影響を与えているかを比較検討することが課題である。

論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士（芸術学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。